

## 松島町史 目次

### 発刊のことば

### 凡例

## 第一章 概要

- 第一節 位置と地形
- 第二節 地質
- 第三節 気候
- 第四節 沿革
- 第五節 町の木、町の花、町の鳥

## 第二章 原始・古代

- 第一節 原始・原史
  - 一 先土器時代
    - 先土器時代の環境 先土器時代の人類 先土器時代の道具 熊本県内の先土器時代遺跡
  - 二 縄文時代
    - 縄文時代の環境 縄文人 縄文時代の編年 縄文時代の生業 縄文時代の生活 松島町の遺跡
  - 三 弥生時代
    - 弥生時代の開始 弥生人 弥生式土器 弥生時代の生産 農業と漁業 天草の弥生文化と松島町
  - 四 古墳時代
    - 古墳の変遷 装飾古墳 古墳時代の土器 天草の古墳文化 松島町の古墳
- 第二節 古代
  - 一 古代の肥後
    - 火国 古代の事件
  - 二 海と天草
  - 三 天草五郷

## 第三章 中世

- 第一節 緒について中世史の解明
  - 天草氏、志岐氏の登場 蒙古襲来絵詞の大矢野二兄弟 南北朝時代の天草
- 第二節 内野河内城
  - 一 従来の見解
  - 二 城域の問題
  - 三 堀切り

- 四 石垣
- 五 その他の遺構
- 六 内野河内城の範囲
- 第三節 金性寺の六地藏
- 第四節 キリシタン伝来
  - 一 キリシタン
  - 二 志岐氏とキリシタン
  - 三 天草氏とキリシタン

#### 第四章 近世

- 第一節 安土・桃山時代
  - 一 織豊政権の成立
    - 信長による統一事業 秀吉の全国統一
  - 二 天草をめぐる九州の状勢
    - 大友と島津 竜造寺
  - 三 秀吉の九州統一
  - 四 佐々成政と国衆一揆
    - 佐々成政 国衆一揆
  - 五 肥後分国と天草諸豪
    - 肥後分国 天草氏 上津浦氏 栖本氏 大矢野氏 志岐氏
  - 六 天正の天草合戦
    - 原因 志岐城攻め 本戸城攻め
  - 七 文禄・慶長の役
    - 文禄の役 慶長の役
  - 八 関ヶ原の戦と行長の最後
    - 関ヶ原の戦 行長の最後 宇土城落つ 清正と天草統治
- 第二節 桃山期のキリシタン
  - 一 大矢野キリシタン
  - 二 「モトヤマ」の布教
  - 三 栖本のキリシタン
  - 四 天草大神学院
  - 五 志岐城代 日比屋了満
  - 六 上津浦布教
- 第三節 寺沢時代の天草
  - 一 寺沢二代
  - 二 天草の石高
  - 三 富岡城修築
  - 四 番代と郡代
  - 五 寺沢期の天草キリシタン
    - キリシタン追放令 追放と迫害 コウロス徴収証言文書の署名者 潜伏と迫害

#### 第四節 天草・島原の乱

- 一 乱の原因
- 二 乱の起こり
- 三 大矢野・上天草の動静
- 四 切支丹棟領・渡辺小左衛門
- 五 寺沢勢の応援
- 六 唐津からの援軍
- 七 島子・本戸戦
- 八 富岡城攻防戦
- 九 乱における当地の動静
- 一〇 細川勢の天草渡島
- 一一 島津勢の天草掃蕩
- 一二 原城戦
- 一三 乱後の仕置
- 一四 乱と五人衆の子孫

#### 第五節 天草亡所開発仕置

- 一 山崎甲斐守 城普請に迷惑  
荒廢を極めた乱後の天草領 今も残る富岡の溜池等を築く
- 二 名代官 鈴木重成着任す  
阿弥陀如来と二十五菩薩像 われわれの郷土は大矢野組に属した 入り  
百姓(移住民)の導入をすすめる 年貢を逋減 復興を促進 身命を賭し  
て仁政を布く 三人の高僧が来島し天草近世仏教を再建 鈴木正三 破吉  
利支丹を著す 三河武士の気魄正三禅師の語録 一庭融頓 天草西部の禅  
寺を披く 中華珪法 天草東部の禅寺を開く ふるさとの名刹金性寺のい  
われ ふるさとの神々も復活した

#### 第六節 天領

- 一 第二次天領政治始まる  
天領時代の統治機構 勘定所・代官・村役人 大庄屋、庄屋を権威づける  
ため 御用触れが語る農民支配の実態 村々では五人組連帯の自治の掟  
書 砥岐組そして大矢野組島原城主松平家預かりに 大名行列が海を渡  
って来た 江戸の上使の一行 阿村泉屋に宿泊 すっぽかしを食った江戸  
役人の歓迎準備
- 二 農は国の大本なり  
寺沢検地四万二〇〇〇石の実態 石高半減前後のこと 内野河内村庄屋  
家に残る万治検地帳 われわれの郷村では四、五、六割の減石 検地検見  
そして年貢の割り付け 御成箇郷長裏書するわが郷村の農業生産性 規  
定石高の五割前後を年貢として徴収された 嚴重をきわめた年貢米の取  
扱い 日ノ丸使用のはじまりは長崎廻米船 村入用帳が語る時代相
- 三 孝子喜左衛門のこと  
島原城玄関前で嘉賞される 熊本檀園が碑文を寄す いまも孝子をたた  
えて

- 四 姫浦と内野河内の山論  
元禄三年に姫浦が提訴 内野河内村も応訴する 野焼き引火で問題再燃  
姫浦村の訴状内容 内野河内応訴する またまた論争中堺松を伐り出す  
明治維新後も尾を引いたが
- 五 武士身分の山方役  
元禄二年内野河内に番所新設 山方役大西氏世襲し居付く 切米十石の  
地役人 大西家は一八か村の山林を支配した 山方役—問屋(船宿)—船  
持ち衆 大庄屋の下改めは名目に終わった
- 六 人口増加と甘藷導入  
われわれの郷土も人口が増え続けた 天草には人口管理の悪習がなかつた  
大航海時代の波に乗って甘藷が伝来 一八世紀初頭には天草にも甘  
藷が導入
- 七 明細帳に見る村のありさま  
明和二年の内野河内村 本百姓・名子・無高水呑に分かれた農民社会  
天保九年の内野河内村
- 八 飢饉対策の困米制度  
農業技術はまだ非科学的だった 西国郡代独自の助郷穀もあった 肥後  
国天草郡村々夫食困方の大構想 天草の食糧事情と自給自足を前提に  
寄篤な銀主の協力もあった 宗門改め廻村の折に貯穀改めも カンネカ  
ズラ、ワラビ、スミレやカシの実まで 救飢食糧の貯蔵そのものが困難で  
あった
- 九 キリシタン禁制の絵踏み  
旧幕時代天草郡踏絵の儀は 役人や僧侶等は絵踏を免除 島原藩宗門奉  
行が渡海入郡してきた 救飢用の貯穀改めをかねて 長崎出稼人には現  
地で宗門改め 流人も踏絵の対象
- 一〇 天領期の漁業と海運  
定浦と端浦 端浦の合津でイワシ地曳網 中国輸出用の俵物生産 帆船  
を駆る航海者たち 当時の船舶法規
- 一一 伊能忠敬の天草測量  
天草の官民こぞって歓迎準備をすすめた 幕府測量方一行わが郷土を行  
く 忠敬の差し料は竹光の刀だった
- 一二 西運寺門徒の法難  
宗門疑わしく相聞こえ候 長崎奉行所に老中下知 内座の砲弾は魅力が  
あった 獄死者たち抗議の自白 弥陀他力の本願にて助かり候間 安心  
の説法に心得違い 血判証文の効果なくついに島原藩が動く 片寄り信  
仰が罪科とされた 密偵二人の悲運 判決申し渡し その後、一向宗寺院  
への取締まりを強化
- 一三 犯罪と刑罰  
大庄屋、庄屋に治安維持の責任 御定書百ヶ条の厳しい規定 島内治安  
維持に胡乱者潜入を警戒 今泉村に怪しげな修験者が現われた 激昂の

余勢から村人たちが撲殺 富岡代官所から治安維持を飛達 長崎奉行所の御厄介になる 庄屋家の廃絶は本件の後遺症か

一四 銀主の抬頭と百姓相続方仕法

銀主松坂屋は今泉村の庄屋株さえ買い取った 世に言うメイワクの時代相 小前百姓層の困窮と銀主による富の独占 雲仙津波の襲来が追い討ちをかけた 寛政の改革を背景に天草独自の仕法を検討 大庄屋たちが抜本的な百姓救済策を請願 袖乞いと称する騒ぎ百姓の動き 余国類外の仕法ついに発布さる 元銀で質地は受け戻し滞納小作料も切り捨て

一五 海面干潟御締切りのこと

キリシタン乱後天草の干拓開始 新田の検地高入れ進む 江戸役人も見分に下向 零細規模の天草干拓 天保四年の大干拓計画 膨大な資金と労働力を要した 史実—阿村お菊 阿村の塩浜 新田経営の銀主が庄屋株を買収 倉江川の曲流を活用 平洲新田開発をめぐる経緯 干拓適地すでになし

一六 天保・弘化の百姓一揆

百姓相続方仕法の延伸復活を飲んで 一揆の引き金になった天保の飢饉 金利引き下げの公儀触達を誤解 仕法復活めぐりあれこれの動き 大矢野に一揆蜂起—合津に引火—上島一帯に延焼 高木代官見習や長崎奉行所与力が鎮圧に来島した 判決の申し渡しと新しい仕法の発布 連坐総数は二万五千人を越えた 被害者にも処分されたのがいる 微温的な仕法に不満 弘化一揆に突入する

一七 流人の島

高野山から大量の流人 生類憐みの令の犠牲者か 享和元年に再開 上方流人来たる 高德の定舜上人 悪漢野口瀬兵衛 合津村の博奕事件 流人も妻帯を許された 流人の島抜け騒動 村々が流人の暮らしを保障 ゆめみずばさめざらましを……

一八 牛痘法伝授の青年医師群

疱瘡患者は島に捨てた 稀痘神法の妙薬は梅檀の実であった 上津深江大田に種痘山をひらく 絵師木下逸雲により牛痘法が導入される

一九 江戸時代の教育と文化

天草における教育の発祥は 隣郷学半舎の秀才たち 笈を負うて日田の広瀬淡窓に学ぶ 江戸時代の後期には各地に漢学塾起こる 春日竹堂 倉江河畔に吟行す 西海僻遠の離島天草に国学の水準も高かった 村々に花咲く寺子屋の教育 教良木の漢詩人高尾山堂

二〇 他国出稼ぎ始まる

西運寺の過去帳がその実態を物語る 代官所も二三男対策に乗り出す 長崎開港の基礎を築いた天草人たち 長崎奉公と華美の風潮 活発化恒常化していく 他国出稼ぎ

## 二一 幕末の郷土

天草島沿岸警衛の儀は近隣諸藩が命ぜらる 天が下神の御末の国なれば  
…… 教良木村の六人 制勝組に参加す 天草は薩摩に大義を示した 早  
くやって来た天草の明治維新 非運に見舞れた佐幕派の庄屋たち

## 第五章 近代

### 第一節 明治期の郷土

#### 一 天草の明治維新

長崎裁判所の管轄下に 肥後天草福岡県事佐々木三四郎の着任 旧来  
の地役人たちも天草廻役に奉職する 天草の西洋小銃を奥羽戦線へ回送  
す 江戸天下様から天子様の百姓に めまぐるしい変革の時代に 諸事  
改革への道なおつづく

#### 二 八代県から白川県、熊本県へ

旧弊一掃のため行政改革を断行 氏子札をもとに壬申戸籍を作製 白川  
県天草出張所を町山口村（本渡）へ くりかえす行政区域の編成がえ 地  
方自治の芽生えも 郡・県会に進出した郷土の選良

#### 三 西南戦争とわが郷土

血税騒動は鎮圧された 郷土出身の兵隊はじめて勲章を 軍夫の徴募に  
反対運動 物情騒然たる空気を背景に 教良木村靈光寺門前に一揆終結  
次第々に官軍びいきに傾いた 山型軍卿の指令 天草近傍油断なく

#### 四 地券制度による国土の掌握

昔ながらの年貢米徴収 収穫高課税から地価への課税に 天草の地租改  
正は明治九年を中心に 地押調査費は地主の負担で 地券調方請負い五  
野安万の日記 地租改正が産んだ悲劇 阿村に残る土地竿図帳 明るみ  
に出た隠田畑の存在 竹槍でちよいと突き出す二分五厘

#### 五 日清戦争とわが郷土

駐韓公使は天草出身の竹添進一郎だった 郷土部隊は旅順攻略そして威  
海衛へ進撃 銃後は凶作に苦しめられた 星平では赤痢騒ぎも起こる  
電信架設や県道工事 新しい島づくり進む 戦えば勝ち攻むれば取り  
三国干渉のこと 進展する資本主義 郷土社会に影響も

#### 六 漁業制度の近代化

漁業勝手稼ぎを端浦各村が請願 定浦の村々が反対運動を展開したが  
明治政府の方針が新しい海を開いた 天草郡漁業組合が誕生 阿村、合津  
両浦沿岸漁業に刺激 樋合漁業の歩み

#### 七 日露戦争とわが郷土

満州の曠野に転戦した郷土部隊 名誉の戦死をたたえられて 生還の勇  
士は村の指導者に アジア民族の覚醒を促した 戦争がもたらしたもの  
は何か

#### 八 文明開化と殖産興業

国民皆学の時代へ 苓陽学校では高等教育 早くも郵便局が誕生した  
電信の開通は教良木局から 道路網の整備にも着手した 海上交通の夜

明け 警察と消防の近代化 百姓相続方仕法と阿村の浦ノ田塩浜 農家副業の樫実とり 山間の内野河内村明治十年物産調べ 今泉村でも渋柿冥加金 古くて新しい地主と小作人の問題 甘藷と甘蔗 虫害に悩まされた稲作 海外輸出向け養蚕業が成長 牛馬耕の普及につれて 鹿の棲む故里をあとに出稼ぎへ

## 第二節 大正・昭和期

### 一 時代概観

### 二 戸数、人口の推移

### 三 政治

村政 郡政 郡政廃止 普通選挙と政党

### 四 産業

産業概説 耕地整理と自作農組合 水稻晩化栽培 養蚕 畜産 葉たばこ 農業技術の向上 施肥の改善 商工業 瓦焼窯 採石業 海運と造船 産業組合

### 五 不況と経済更生計画

農村の不況 今津村、経済計画村指定

### 六 交通

大正期の道路事情 道路法制定 県会における道路問題 県道と町村道 大正期の今津港

### 七 電話の普及

### 八 電灯の点灯

### 九 補習学校・青年学校

### 一〇 徴兵検査

### 一一 社会事象

日独戦争 保健と災害 天草の大火

## 第三節 戦争の時代

### 一 戦争のあゆみ

満州事変 ファシズムへ 日華事変 第二次世界大戦 太平洋戦争

### 二 国民精神総動員

### 三 常会

### 四 防護団

### 五 戦時教育

### 六 銃後奉公会

### 七 当地での戦地事項

防空監視哨 暁部隊 知十の飛行機墜落 老岳上空での空中戦と樋合空襲 阿村空襲 戦時通達断片

## 第六章 現代

### 第一節 戦後の混乱と諸改革

#### 一 戦後の混乱と復興の動き

インフレと闇 預金封鎖と新円切換え 復員と引揚げ 連合軍の進駐  
公職追放 軍国調一掃 阿村紛争 コレラ流行 阿村常会の動き 戦後  
対策委員会 天皇の第一次天草巡幸

## 二 戦後の諸改革

新憲法の制定 学制改革 熊本大学理学部附属合津臨海実験所 戦後の  
農地改革 当地の実際 農業協同組合の発足と合併 国立公園指定 観  
光憲章の制定

## 第二節 松島町の誕生と発展

### 一 町村合併

町村合併基準委員会 合併の経過 村名の由来 松島村の成立 新旧予  
算比較 新区の編成 町制施行 村長の提案要旨 町制施行記念行事

### 二 松島町役場の変遷

当初の庁舎 町役場の機構の改革 町長選挙無効決裁問題

### 三 戦後の人口・人口動態

### 四 新村・町建設の諸計画

松島村建設計画 新農村漁村建設計画 松島町離島振興計画 松島地域  
開発振興総合五か年計画 農業構造改善事業計画 第二次構造改善事業

### 五 阿村干拓

干拓地の経歴

### 六 天草五橋の開通

森慈秀の県会提案 天草架橋期成会 天草架橋寛政記念博覧会 天皇の  
行幸

### 七 五橋開通の影響

人口減少率の鈍化 農業 漁業 製造業 商業 観光 交通

### 八 生活の向上

高度経済成長 上水道の普及 住宅の改築 消防力の充実 民生・医療・  
福祉の向上

### 九 七・六大水害

水害の範囲

### 一〇 県立天草青年の家

### 一一 県立松島商業高校

### 一二 アメダス観測所設置

### 一三 教良木ダム

## 第七章 民俗

### はじめに

### 第一節 教良木について

### 第二節 人の一生

#### 一 誕生

(1) 妊娠祈願 安産祈願

(2) 妊娠



- (3) つわり
- (4) 帯祝い
- (5) 妊娠の心得
- (6) 胎児の性別判断
- (7) 墮胎、間引き
- (8) 不妊
- (9) 里帰り
- (10) 産屋
- (11) 産婆 こざばあさま (こぞえばあさま)
- (12) 産褥と出産
- (13) へその緒
- (14) 母体の処置
- (15) 後産
- (16) 産湯
- (17) 死産
- (18) チケ (血気) 養生
- (20) 神たて、名づけ お七夜
- (21) 乳
- (22) 産婆の報酬
- (23) 宮まいり・ひあけ
- (24) 孫戻し
- (25) モモカ祝い 食い初め
- (26) 初節句
- (27) 誕生祝
- (28) 育児
- (29) 子供祝から青年組まで

## 二 婚姻

- (1) 結婚
- (2) 樽開きまで
- (3) 祝儀
- (4) 小宿
- (5) 入家の儀礼
- (6) 婚儀並びに披露
- (7) 祝儀二日目
- (8) 初歩き
- (9) 結婚の諸形態について

## 三 葬送

- (1) 霊呼び
- (2) 末期の水
- (3) 予兆
- (4) 遺体の処置

- (5) 家内の処置
- (6) ツロ づけ
- (7) トギ
- (8) 葬式の準備
- (9) 湯濯
- (10) 納棺
- (11) 葬送
- (12) 忌明け（ヒあけ）まで
- (13) ナマホージ
- (14) 年忌
- (15) 法要
- (16) 彼岸
- (17) 盆

松島町歴史年表

参考史料及び文献

御世話になった機関及び人々

あとがき